

平成24年度

山形市中体連

スポーツ教室

# 軟式野球夏季大会

(議長杯争奪軟式野球大会)

## 実施要項

主催 山形市中学校体育連盟

後援 山形地区野球連盟

期日 平成24年8月4日(土)～

時間 午前9:00～

会場 山形一中・山形十中・山形七中・高楯中

平成24年度

山形市中学校スポーツ教室軟式野球夏季大会実施要項  
(議長杯争奪軟式野球大会)

- 1 主催 山形市中学校体育連盟軟式野球専門部
- 2 後援 山形地区野球連盟
- 3 大会役員 大会委員長 齊藤 一彌  
総務 林谷 佳典 秋葉 淳司 細谷 直樹  
大会委員 高橋 昭一 多田 祐一 藤原 誠 渋江 和樹 庄司 秀一  
長岡 潔 五十嵐 晋 大沼 康平 鈴木 一義 多田 渉  
根本 寛尚 池野 吉洋 松田 剛 杉沼 健 原田伸次郎  
今田 秀樹 石山 弘 会田 智之 佐藤 陽子 榎本 茂久  
長沢 英司 山田 博志 大山 宏樹  
審判長 秋葉 淳司  
審判員 山形市中体連野球専門部員及び市内各中学校野球部保護者  
会場主任 高橋 昭一 (山一中)  
原田伸次郎 (山十中)  
根本 寛尚 (山七中)  
秋葉 淳司 (高楯中)  
救護 各校救急箱を必ず持参すること。顧問が1人の学校は保護者の連絡員を付けておくこと。
- 3 期日 平成24年8月4日・5日
- 4 会場 山形一中グラウンド 山形十中グラウンド 山形七中グラウンド 高楯中グラウンド
- 5 参加資格 山形市中学校体育連盟に加入している生徒で、学校長が認めたチーム。
- 6 参加人数 部長1名・監督1名及び選手1チームの人数制限はもうけない。  
コーチが必要な場合は、この他に1名を追加することができる。
- 7 部長・監督  
コーチ 部長・監督は当該校の校長・教員とする。コーチは当該校の校長が認めたものとする。
- 8 競技規則 (1)2012年公認野球規則及び、山形市中学校野球大会特別規則による。  
(2)その他の細部については、専門部会による。
- 9 競技方法 2ブロック、トーナメント方式とする。
- 10 表彰 各ブロック2位まで表彰する。

1 1 組 合 せ 軟式野球専門部会時に、責任を持って行なう。

1 2 開会式・閉会式 今年度も行わない。

1 3 審 判 割 原則として、一塁側チームより主審と2塁塁審、三塁側チームより1塁・3塁塁審を出すこととする。

\* 審判員の方は、攻守決定時刻まで、バックネット裏に集合する。

\* 審判の服装については、白いシャツに紺又は黒・グレーのスラックス、野球帽等、ふさわしい服装とする。

\* 競技上のトラブルについては、審判団、両校監督協議の上決定する。

1 4 試合主任 当該チームが協力して、試合運営を行なう。

1 5 雨 天 時 試合の有無は、7時に各会場主任が判断し、総務に連絡する。

本大会は、2012年公認野球規則と山形市中学校総合体育大会軟式野球競技特別規則を適用する。

## 山形市中学校総合体育大会軟式野球競技特別規則

### 【試合前】

1. チームはメンバー交換の時刻には球場に到着し、その旨を本部に報告する。試合開始予定時刻になってもチームが到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には、棄権と見なす。交通事情による到着遅延については会場本部で協議し決定する。
2. 各チームは試合開始予定時刻40分前、球場で待機するとともに、試合開始40分前または前試合4回終了時に監督が引率の上、主将はメンバー表4通、試合球3個を持参し大会本部に提出する。但し、第2試合以降は前試合終了後とする。(メンバー表には先発9名の記載のみでよい。なお、振り仮名をつけること。)同時に攻守を決定する。尚、けがなどにより、テーピング等(肌色)の必要な選手も同行すること。メンバー交換後、次試合の先発投手と捕手のみ、ベンチの許可を得てブルペンを使用できる。
3. ベンチは抽選番号が若い方を1塁側とする。
4. ダッグアウトには、大会申込書に記載された者(部長1名、監督1名、コーチ1名-外部コーチ登録された者に限る、チーム登録選手25名以内)のほかは、着席を認めない。立ち入りも認められない。
5. 場内におけるフリーバッティングは行うことができない。但し、トスバッティングは差し支えない。
6. シートノックは、後攻側のチームから行い、通告より7分以内とする。ただし、状況によって短縮または省略することがある。ノッカーへのボールだしの補助員は、ヘルメットの着用が望ましい。ダブルゲームの場合、シートノックは行わない。

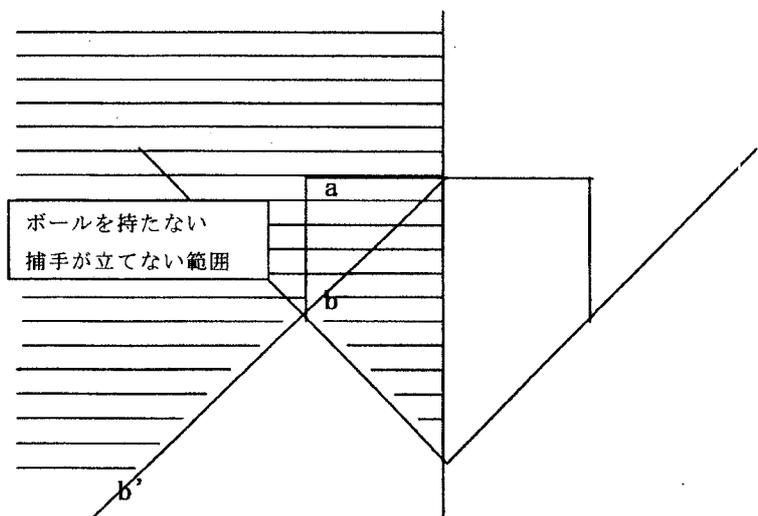
### 【試合中】

7. 本大会はトーナメント方式7回戦とし、5回以降7点差の場合はコールドゲームを適用する。但し、決勝戦は点差によるコールドゲームは行わない。また、試合続行不可能な場合は、5回(4回1/2も可)をもって正式試合とみなす。暗黒・降雨等によるコールドゲームは本部と審判団の判断で適用する。天候によって、試合中の進行を中断する場合がある。(降雨、雷、濃霧など)
8. 使用するボールは、(公財)日本中学校体育連盟公認球B号とする。
9. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチはミーティングに参加せず、ヘルメットを着用し、直ちに所定の位置に着くこととする。
10. 攻守交代の時は、投手またはプレートに一番近い野手が球を投手板近くにおくこと。
11. 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら次打者は低い姿勢で待つ。決して守備を妨害するような行為はとらないこと。
12. 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は7球、2回以上は3球とする。(審判が状況によって考慮する場合あり)また、捕手は安全のため、マスクをかぶる。

13. メガホンは1個のみベンチに持ち込むことができるが、その使用は監督のみとする。
14. 選手の交代は、監督が告げる。代打の場合は、その限りではない。コーチは、試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
15. 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接質問することができる。選手及びコーチが、ベンチまたはコーチボックスを離れて、ボール、ストライク、アウト、セーフ、フェア、ファウル及びハーフスイングについての審判員の宣告に対して異議をさしはさむことは許されない。
16. 監督はファールラインを超えてダイヤモンドの中に入らない。
17. 危険防止のため、捕手は必ずマスク・スロートガード・レガース・プロテクター・ヘルメットを、打者、走者、次打者は、両耳ヘルメットを必ず着用すること。
18. 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐ近くに立ち、野手が隠し球の行為をしようとしたとき、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、投手に球を戻させる。
19. 突然事故の起きた場合に、一時走者を変更したいときは、球審に申し出て審判団が必要と認めるときは、これを許可し試合を進行させる。臨時代走は、投手・捕手を除く打者前位の者とする。
20. 試合進行上、打席を外したり、無用なタイムは慎み、サインは打席から見るなどスピーディな試合進行に心がける。各イニングのプレイ前を除き、試合中のボール回しは行わない。
21. 規則7・06(a)【付記】【捕手のブロック】の適用について、中学校野球では『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。

〔規則上の解釈〕

- (1) 走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できたと判断できる場合である。
- (2) 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に『アウト』のコールをした場合でも改めて「オブストラクション」の宣告をしない。
- (3) 走塁妨害の適用外であってもその行為があった場合は、試合を停止した上、捕手に対して嚴重注意すること。
- (4) ボールを保持する前の位置は次の通りとする。
  - ① ホームベースの中央線より右側に立ちベースの左半分走者に見えるようにすること。
  - ② また、捕手がホームベースより後方に位置する時でもホームベースと3・本間のラインが重なる3塁よりの接点（上図 b-b' 点）から前方に出てはいけない。
- (5) 捕球してからの動き  
ボールを保持しているときは塁線上に移動してタッグしてもよい。



22. 野球規則3.03原注（投手は、1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許されない）は本大会で適用しない。

23. 本塁打を打った選手に握手を求めため、グラウンドに出てきてはならない。
24. 塁上の走者、及びコーチズボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
25. 控え野手のキャッチボールなどのアップに関しては、1組のみブルペンで行うことができる。
26. 野球規則 8.06 関連事項
- ① 監督が、同一イニングに同一投手のもとへ2度目に行くか行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合）、その投手は自動的に交代しなければならない。但し、交代した投手が、他の守備位置につくことは「中学校野球」では許される。
  - ② 捕手を含む野手2人以上が、一試合に投手のところへ行ける回数を、7イニングスの試合にあっては3度以内とする。ただし、監督と共にいった場合は除く。なお、延長戦となった場合は、2イニングスに1度、特別延長戦は1イニングスに1度まで行くことができる。
  - ③ 監督が、相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせたと判断した場合は、投手のところへ1度行ったこととする。

27. 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決しない時は、次の回から特別ルール（特別延長戦）を適用する。

**【特別延長戦】**

継続打順で前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様規則によって認められる選手交代は許される。特別延長戦に限り、監督がタイムをとって指示を与える回数（捕手を含む内野手2人以上が投手のところに行くことも含む）を1イニングに1度までとする。

**【試合後】**

28. 試合終了後の挨拶は、ホームプレートを挟んで全て完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
29. 各チームは、部長か監督が、チームが球場を去る前（試合終了30分以内）に本部に連絡し次の試合の日程を確認する。

**【その他】**

30. 用具・装具等は必ず規定のものを使用し、自軍ベンチ内に置くこと。バットリング・マスコットバット・代用の金属類のベンチ内への持ち込みを禁止する。バットは、一体型バットとする。但し、ユニフォーム・用具等は華美にならないように留意すること。なお、バット、マスク、プロテクター、ヘルメット等の用具は、試合前に審判員の確認に応じなければならない。
31. 選手は必ずユニフォームを着用し、先に提出した出場選手名簿と同じ背番号をつける。同一チームの各プレーヤーは、同色であるアンダーシャツ・ストッキングを着用すること。（ハイカットストッキングは安全上認めない。ローカットストッキングはチーム同一とする。）選手、監督、コーチのリストバンド、サングラスの着用も認めない。

32. 監督・コーチは、選手と同じユニフォーム、同色のスパイクまたはシューズを着用する。なお、監督は背番号30番をつけるものとする。部長は平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白色のポロシャツ、選手と同一の野球帽）とする。但し、部長が女性の場合は考慮する。部長がノッカーを兼ねる場合は、選手と同一のユニフォーム、同色のスパイクまたはシューズを着用し、背番号はつけない。ノッカー時、時計、サングラスはかけない。
33. 選手のテーピングは肌色にちかい色のものとし、投手は投球に影響のあるものは使用できない。
34. 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合前後においてもスポーツマンらしくマナーについては十分に留意する。
35. 球場内の練習は、シートノック以外はダイヤモンドに入らないで行うことができる。
36. 連続する試合になる場合は、試合終了後より次試合開始までは、間を原則50分間とする。
37. 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部が決定し連絡する。

#### 【保護者・応援団について】

38. 中学野球にふさわしくない応援は禁止する。
  - (1)紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼりは禁止する。
  - (2)相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援はしない。
  - (3)応援席周辺は散らかさない。特にゴミは持ち帰ること。
39. 応援は、各チームの部長が責任を持って指導し、リーダーは当該校の教職員か生徒に限る。
40. 応援に関しては、球場指定の場所で行う。鳴り物の応援などは、本部付近及びベンチから離れて使用する。
41. ダッグアウト上やその付近からの選手やベンチへの指示や相手チームへの妨害行為（野次や試合展開に関わった声がけ等）、ベンチ内での携帯電話等でのやりとりなど、試合進行の妨げ等になる行為はおこなわない。明らかなる場合は、本部の指導で退場させることもある。

## 夏季大会特別規定

- 1 今大会も、シートノック時の補助員を認める。
- 2 得点差によるコールドゲームを、すべての試合で適応する。
- 3 タイムの制限は設けない。
- 4 延長戦は行わず、7回終了後すぐに特別延長戦を行う。特別延長戦を2イニング行っても勝敗が決しない場合は、最終出場選手9名による抽選とする。

平成24年度

山形市中学校スポーツ教室軟式野球夏季大会組合せ  
(議長杯争奪軟式野球大会)

- A: 一中グラウンド
- B: 十中グラウンド
- C: 七中グラウンド
- D: 高楯中グラウンド

